

# 2021 年度 学生評価委員会報告書

2022 年 3 月 4 日 学生評価委員会

---

## 目次

2021 年度「学生評価委員会」の活動について .....	1
2021 年度 学生評価委員会 評価報告について .....	2
第 1 回学生評価委員会 開催報告 .....	4
第 2 回学生評価委員会 開催報告 .....	7

## 2021 年度「学生評価委員会」の活動について

### 1. 学生評価委員会編成の経緯

共立女子大学・共立女子短期大学では、大学・短期大学の諸活動を点検・評価する中で在  
学生からも広く意見等を募り、将来へ向けて改善していくことを目的として、大学・短期大  
学自己点検・評価規程にしたがい大学・短期大学自己点検・評価実施委員会のもとに、2021  
年 10 月 1 日付で「学生評価委員会」を編成した。

委員の選出にあたっては各学部・科から 2 名ずつの推薦を受け、各学部・科より 2 名、  
合計 22 名が学長より委員として委嘱された。

### 2. 2021 年度学生評価委員会の開催

#### ・第 1 回学生評価委員会

開催日時：10 月 25 日（月）12 時 50 分から 13 時 20 分

テーマ：「100 分授業について」

開催形態：ハイフレックス型

#### ・第 2 回学生評価委員会

開催日時：12 月 23 日（木）17 時 30 分から 19 時 00 分

テーマ：「オンデマンド型授業について」

開催形態：対面のグループワーク

### 3. 今後について

2021 年度は主に授業に関するテーマで学生から意見を聴取し評価を受けたが、今後は同  
カテゴリーをさらに深堀りするとともに、出来る限りの情報開示を行ったうえで他のカテゴ  
リー（例：学修支援や履修指導に関する事/入学者選抜に関する事/施設設備に関するこ  
と/その他必要とする事項）に関する評価も積極的に受けていく予定である。

## 2021年度 学生評価委員会 評価報告について

### 1-1. 100分授業について

本学では、2021年度より、従来1コマ90分であった授業が100分となりました。導入にあたり学生には「学生個々がより授業に積極的に参画できる能動的な学習形態を取り入れた授業展開を目指すこと」ほかを主な趣旨として周知されました。また、先生方には「従来の授業形態を見なおしデザインしなおすことで充実した授業を展開できるようになる」という狙いがある旨が周知されており、学生側もそれを実感しながら授業に臨むことによって、学びが深まり、広がることが期待されています。

#### ●100分授業導入の趣旨

- (1) 休日授業を極力行わないこと
- (2) 夏休みや冬休みの休業期間を確保すること
- (3) 授業時間が10分延長することで、学生個々がより授業に積極的に参画できる能動的な学習形態を取り入れた授業展開を目指すこと

#### ●100分授業導入にあたり大学側から先生方へ伝えた、授業や事前事後学修の再構築時に盛り込みたい活動

- (1) 授業を学ぶ意味や価値・目的を認識できる活動
- (2) 授業内容を整理する活動
- (3) 授業内容と自身の経験や知識と関係付ける活動
- (4) 自身の知識を再構成する活動

### 1-2. 学生評価委員会の評価

学生評価委員会では、本件について委員へのアンケートおよび委員間における意見交換等を通して、以下の状況を確認いたしました。

大学側が今年度の授業開始前に学生に対して通知していた「100分授業導入の趣旨」が十分に伝わっていたか、という観点については、一定数の学生には伝わっておらず、学生への趣旨の伝え方や理解してもらうための方法について工夫する必要があると考えられます。

一方、大学側が先生方に依頼した内容が全体的に授業で実施され学生に伝わっているか、という観点では、学生側の認識としては「実施されている」「実施されていない」がそれぞれ半々といった状況であり、学生視点での授業に対する印象から推察すると先生個々人の認識の差も大きいようで、100分授業で求められる授業改善のためには、全ての先生方へのさらなる働きかけと理解の浸透が必要であることが窺えました。

学生評価委員会としては、100分授業について以下のとおり評価いたします。

【1】「100分授業」の導入に際して学生や先生方へ向けた大学側からの情報発信は確実に行われているものの、学生や先生方の理解度や浸透度にはバラツキがあり、発信方法やタイミング・頻度等にはさらなる工夫が必要であり、引き続き折々の発信が望まれる。

【2】導入による授業改善の狙いは、全ての先生方への浸透不足が認められるため、情報の浸透が進む2年目以降の授業内容の充実が期待される。

### 2-1. オンデマンド型授業について

本学では、オンデマンド型授業について、「本学の教育をより一層充実したものにするため、(中略)知識定着を学修目標とする科目の一部についてはオンライン授業(オンデマンド型)を導入し、本学全体の学修効果の向上を目指します。」という趣旨を2020年11月に学長名で全研究科・学部・

学科へ向けて発信し、2021 年度より導入しています。また、導入に際し先生方は教育の質保証のために以下の 8 点を遵守することとなっています。

●オンデマンド型授業の設計にあたっての質保証のための遵守事項

- (1) 全ての回をオンデマンド型授業として設計している。(シラバスに明記している)
- (2) 1 回の授業について100分の学修時間を担保する活動を設計している。
- (3) 単位制度の実質化の観点より、事前学修と事後学修を適切に設計している。
- (4) 授業回ごとに学生の学修状況を把握し、適切なフィードバックをするよう設計している。
- (5) 「カリキュラム・チェック表」で「知識・理解」以外の能力(「技能」、「思考・判断・表現」、「関心・意欲・態度」)も養成する科目であることを定めている場合、その能力も身に付けられるように授業設計をしている。
- (6) 学修状況から各授業回の出席状況を把握できるよう設計している。
- (7) 授業の進め方や内容について、適宜学生が質問し、回答を受けられる体制が整えられている。
- (8) 学生の受講環境に配慮し、一時的なネットワークや機器のトラブルがあった場合も、受講や課題の提出ができるよう、教材の公開期間や課題の提出期間を設定している。

## 2-2. 学生評価委員会の評価

学生評価委員会ではこれらに基づき、「オンデマンド授業導入の背景と趣旨が伝わっていたか」および「オンデマンド型授業の課題や改善点」という観点で確認しました。

委員へのアンケート結果では、一部の授業ではオンデマンド型授業の実施回数が足りていない／学修時間が担保されていない／事前事後学修の設定がされていない 等の課題があること、出欠登録やルーブリックを用いた成績評価の説明にも一部課題があると考えられることを共有いたしました。また、オンデマンド型授業で対面授業と同等の学修効果が得られたか、という面では、一定の効果は見られるものの、一部の学生については「対面授業と同等の学修効果が得られていない」という回答もありました。

委員会開催時に実施したグループワークでは、①オンデマンド型授業のメリット(継続してほしいこと) ②課題・問題点 ③新たな提案・解決策 等について意見交換を行った結果、オンデマンド型授業は反復学習に適している等の利点がある一方で、受講に向けたモチベーションの維持が難しいことや課題量が対面時よりも増える傾向にあること、フィードバック／学生間の交流／質問への回答速度／LMS(kyonet)の利便性等の点で課題があり改善が必要であること、さらには先生方による授業内容の工夫への期待が大きいこと等も含めて共有いたしました。

学生評価委員会としては、オンデマンド型授業について以下のとおり評価いたします。

【1】導入の趣旨に基づき現状の実施体制の下でオンデマンド型授業の利点を最大限に生かすためには、フィードバックや質問対応の即時性の向上、システム的な改善が必要である。

【2】先生方が今後もオンデマンド型授業の内容・方法等の改善と工夫を続けてくださることへの期待が大きい。

以上、学生評価委員会として、ご報告申し上げます。

外部評価委員会 御中

2022 年 3 月 4 日 学生評価委員会 委員長 千島唯楓

# 第 1 回学生評価委員会 開催報告

## 1. 開催概要

- ・開催日時：10月25日（月）12時50分から13時20分
- ・テーマ：「100分授業について」
- ・目的：本学では、2021年度より100分授業（以前は90分授業）が導入された。100分授業について以下の2点につき学生評価委員会委員の意見聴取・交換を行った。
  - ①「100分授業の趣旨」が学生へ伝わっているか確認するため
  - ②「100分授業の導入にあたり、大学側が各教員に依頼していた内容」が授業で実施され、学生へ伝わっているかどうか確認するため
- ・プログラム：
  1. 学生評価委員会の役割について
  2. 学生委員の紹介
  3. 第1回テーマの趣旨説明
  4. 意見交換
  5. まとめ
  6. 今後の流れ
- ・出席者：21/22名（出席率95%）
- ・事前アンケート回答者：22/22名（回答率100%）
- ・事後アンケート回答者：21/22名（回答率95%）
- ・開催形態：

新型コロナウイルス感染防止に配慮しハイフレックス型で開催した。開催にあたっては、1.事前アンケート 2.委員会当日の意見交換 3.事後アンケート の3段階を以て委員会当日の欠席者にもアンケートへの回答を求め、情報を全員で共有することにより様々な意見を聴取することが可能となった。

## 2. 学生評価の総括

事後アンケート結果によれば、設問1-1（大学側が今年度の授業開始前に学生の皆さんにお知らせしていた「100分授業の趣旨」は、十分に伝わっていましたか）では、100分授業導入の趣旨が「伝わっていた」と回答したのは67%（14人）であり、「伝わっていない」は33%（7人）の結果であった。設問1-2（このように評価した理由を尋ねる設問）の回答などを見ると、今回の学生評価委員会内での説明を受けて「伝わった」と回答した可能性も考えられるが、学生評価としては、100分授業導入の趣旨が一定数の学生に伝わっていないという結果であった。

設問1-2（設問1-1の理由を問う）では、「授業ごとに工夫することで、充実した授業を展開できるようにという趣旨は知っていた。」などの回答がある一方で、「100分授業の趣旨を初めて知った」「90分から単純に10分プラスされたことしか知らない」「細かい概要を聞かさ

れていなかったため、不満だった」「なぜ 100 分授業になるのか、わざわざ資料を読む学生は少ない」など、趣旨が伝わっていないとの評価が見られた。学生に趣旨の伝え方や理解してもらうための方法などが十分ではないことが考えられる。

設問 2-1 (大学側が各教員に依頼した内容は、全体的に実施されていますか) では、各教員へ依頼した内容(1. 授業を学ぶ意味や価値・目的を認識できる活動, 2. 授業内容を整理する活動, 3. 授業内容と自身の経験や知識と関係付ける活動, 4. 自身の知識を再構成する活動、の 4 点をデザインする)が授業で実施されていると回答したのは 52% (11 人) であり、実施されていないと回答したのは 48% (10 名) であった。回答者 21 名中、約半分の学生が「実施されていない」と回答したことから、教員の 100 分授業のデザインへの理解が十分でないと考えられる。「実施されている」と回答した学生の自由記述では「ほとんどの授業で、その授業での学びが社会でどのように役立つのか、獲得した知識を定着させるための事後学習の方法についての説明が行われていた」などの回答があった。一方で、「実施されていない」の自由記述には「教員によって大きく違う」「アクティブラーニングが導入されている授業は少ない」「90 分授業の時と内容が変わっていない」「学生を巻き込まずに教員が話すのを一方的に受けとる授業が多い」など課題点が指摘されている。このことから、100 分授業実施の趣旨を深く理解し、大学側の依頼を十分に反映できている教員だけでなく、従来通りの授業を実施している教員が一定数存在していると考えられる。

事後アンケートにより委員より意見を聴取することができたが、委員会当日は、時間不足により十分な意見交換が行えなかった。

### 3. 事前アンケートの詳細

出欠・参加形態と共に、100 分授業の授業内容や進め方について自由記述にて意見を収集した。

自由記述の概要は以下の通りである

- ①詰め込みすぎ、集中が持たない、間に休憩があるとよい 8 件
- ②授業が早く終わる、時間配分に問題がある 5 件
- ③ワーク授業は理解が深まった 6 件
- ④長期休みが有効に使える 3 件
- ⑤昼休みが少ない 2 件
- ⑥変化なし 2 件

### 4. 事後アンケートの詳細

事後アンケートの設問毎の回答を以下に記した。

設問 1-1 大学側が今年度の授業開始前に学生の皆さんにお知らせしていた「100分授業の趣旨」は、十分に伝わっていましたか。

※以下の3点が、100分授業を導入するにあたって、大学側が学生に伝えた趣旨である

- (1) 休日授業を極力行わないこと
- (2) 夏休みや冬休みの休業期間を確保すること
- (3) 授業時間が10分延長することで、学生個々がより授業に積極的に参画できる能動的な学習形態を取り入れた授業展開を目指すこと

十分伝わった	5名
伝わった	9名
あまり伝わらなかった	5名
伝わらなかった	0名
知らなかった	2名

設問 1-2 上記について、そのように考える理由を自由にご記入ください。

(省略)

設問 2-1 大学側が各教員に依頼した内容は、全体的に実施されていますか？

※以下の4観点が、100分授業を導入するにあたって、大学側が教員に依頼した内容である。

- (1) 授業を学ぶ意味や価値、目的を学生自身が認識できる活動をデザインする
- (2) 学生自身が授業内容を整理する活動をデザインする
- (3) 学生が授業内容と自身の経験や知識と関係付ける活動をデザインする
- (4) 学生が自身の知識を再構成する活動をデザインする

※4観点の詳細は【別紙1】の通り。

十分実施されている	1
実施されている	10
あまり実施されていない	10
実施されていない	0

設問 2-2 大学側が各教員に依頼した内容は、全体的に実施されていますか？

(省略)

## 第2回学生評価委員会 開催報告

### 1. 開催概要

- ・開催日：2021年12月23日(木) 17時30分～19時00分
- ・テーマ：「オンデマンド授業について」
- ・場所：2号館802講義室
- ・目的：本学では、2021年度より一部講義科目につきオンデマンド授業を導入した。オンデマンド授業について以下の2点につき学生評価委員会委員の意見聴取・交換を行った。

①オンデマンド授業導入の背景と趣旨が伝わっているか確認するため

②オンデマンド授業の課題や改善点の学生評価を行うため

#### ・プログラム：

1. 開会にあたって
2. 外部評価委員会への報告内容の確認（第1回の活動内容）
3. オンデマンド授業導入の背景と趣旨説明
4. アイスブレイク
5. 個人ワーク
6. グループワーク
7. 発表
8. 振り返り

- ・出席者：13/22人（出席率 59%）
- ・事前アンケート回答者：19/22名（回答率86%）
- ・開催形態：

2回委員会は、第1回委員会の反省点をふまえ、コロナ禍ではあったが、対面のグループワークで議論を深めることを目指し企画・開催した。（参加者13名）が4グループに分かれて現状認識を行った上で、KPT法を用いて1. 継続すべきこと（Keep）2. 課題（Problem）3. 改善に挑戦すべきこと（Try）を洗い出し、積極的な意見交換・発表に繋げることができた。第2回委員会でのグループワークの形態は、今後の委員会の基本フォーマットとなることが期待される。

### 2. 学生評価結果の総括

今回の委員会では、開催前の事前評価回答として、「本学のオンデマンド型授業の方針が実施されていたか」について10の評価項目を用意し回答の依頼を行った。その事前評価結果を基に当日は委員22名のうち13名が出席し4グループに別れてKPT法のフレームワークを用いたグループワークと発表を行った。

事前評価にあっては、19人（回答率86%）が回答した。事前評価はオンデマンド授業に関する10の設問に対して5, 3, 1点で回答するルーブリック評価を用いた。事前評価結果によれば、1点と評価された項目は、評価項目1：「オンデマンド型授業が実施されていない回があった。」が2件、評価項目2：「1回あたり100分の学修時間が担保されていない回があった。」が6件、評価項目3：「「事前学修」「事後学修」の設定が全くされていなかった。」



が4件であった。この結果から一部の授業では、オンデマンド授業実施回数が足りていない、学修時間が担保されていない、事前事後学修の設定がされていないなどの課題があることが考えられる。

出欠登録について3点と評価された項目は、評価項目6：「一部出欠登録がされていない」が11件であった。フィードバックについては、評価項目4：「毎回の授業ではないもののフィードバックが行われていた」が16件で、評価項目5：「到達目標の能力を獲得できた」は全員ができたと回答があった。評価項目7：「学生が適宜教員に質問ができ、質問に対して回答がされていた」が14件、評価項目8：「授業資料公開や課題提出期間については適切であった」が12件、評価項目9：「ルーブリックの説明や成績評価基準が明確ではなかった」は7件であった。これらの結果から、出欠登録やルーブリック説明には一部課題があることが考えられる。

評価項目10：「オンライン授業が対面授業と同等の学修効果が得られたか」については、「強く感じた」又は「感じた」が12件ある一方で、「感じられなかった」が6件あり、一部では対面授業と同等の学修効果が得られていないという評価であった。

開催日当日のグループワークと発表にあっては、KEEP（継続してほしいこと）として、「好きな時間に場所を選ばず自分のペースで学修できること」、「リアクションペーパーがPC作業で楽」、「動画の再生・停止・倍速での学修と何度でも反復学習できること」などが挙げられた。PROBLEM（課題・問題点）として、「モチベーションの維持が難しい」、「課題のボリュームが多いこととフィードバックの少なさ」、「他の学生との関わりの少なさ」、「その場で質問できない、Q&Aの回答が遅い」、「教員の雑談がない」、「kyonetが使いづらい」などが挙げられた。TRY（新たな提案・解決策）として、「先生がんばれ」、「課題へのフィードバック」、「先生の写真を載せて自己紹介」、「PDF資料だけでなく音声や動画も」、「動画の倍速（kyonet埋め込みは倍速できない）」、「リマインド通知」、「プラスαの学び」、「オンタイムで受講が分かる仕組み」、「他の学生との交流機会」、「先生からのリアルタイムの声」、「Q&Aの返信を早く」、「kyonetを使いやすく、タイムアウト時間の表示を」などが挙げられた。これらの学生評価結果から、オンデマンド型授業では、反復学習に適しているなどの利点があるものの、モチベーション維持、課題量、フィードバック、学生間の交流、質問回答速度、kyonetシステムの利便性などの課題と改善が必要であることが明らかになった。

### 3. 事前アンケートの詳細

開催日前に事前評価回答として、当日出席できない学生評価委員会委員（以下「委員」という）も含めて事前評価アンケートを行った。

オンデマンド授業に関する10の設問により5, 3, 1点でルーブリック評価を行った。評価回答結果は以下のとおりで、その詳細を示す。※【別紙2】参照

回答者：19/22人（回答率86%）

### 4. グループワークの詳細

・テーマ：「オンデマンド授業に対する評価の総括と大学・短大への改善提案をあげてください。」

- ・用いたフレームワーク：

【KPT法】（現状分析+次にすることを明確にする手法）

KEEP=継続してほしいこと

PROBLEM=課題・問題点

TRY=新たな提案・解決策

ホワイトボード、模造紙、付箋等自由に使う。

- ・発表：4グループに分かれて、各グループ3分でK、P、Tを踏まえて発表した。

①KEEP（継続してほしいこと）：20件

②PROBLEM（課題・問題点）：39件

③TRY（新たな提案・解決策）：30件

## ●授業・事前事後学修の再構築のポイント

---

「学生の学び」に焦点を向けた基本的な考え方として以下の4つの項目についての活動を、学生が明示的、継続的に行うよう意識して、授業や事前事後学修を再構築していただければと思います。

### 1) 授業を学ぶ意味や価値、目的を学生自身が認識できる活動をデザインする

- a. 授業を受けることで、何がわかるようになるのか、何ができるようになるのかを学生が認識する
- b. 実社会と授業内容の関係性や、授業内容が学問領域においてどのような価値があるのかを把握できるようにする
- c. 教員が考える授業内容の重要性、おもしろさを学生が認識できるようにする

### 2) 学生自身が授業内容を整理する活動をデザインする

- a. 授業について自身の言葉に言い換えてノートを取ったり、内容をまとめる
- b. 学修状況を把握する活動（課題やテスト）において、学生が自身の状況（何が分かって、何が分かっていないのか）を把握できるようにする
- c. 学生が新しく学んだ内容をそれまでの授業内容と関係づける

### 3) 学生が授業内容と自身の経験や知識と関係付ける活動をデザインする

- a. 学生が授業内容と関係する情報を自身で調べる
- b. 授業内容と学生がこれまで学んできた知識や経験、日常生活を学生自身が関係づける
- c. 学生が授業内容を用いて、自身の経験や知識を意味付けたり、捉え直す

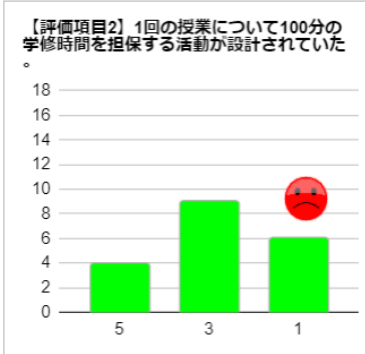
### 4) 学生が自身の知識を再構成する活動をデザインする

- a. 学生がこれまでの授業を定期的に振り返ったり、各回の授業内容を関係づけたり、その関係を見直す
- b. 授業目標の観点から学んでいる内容を捉え直す

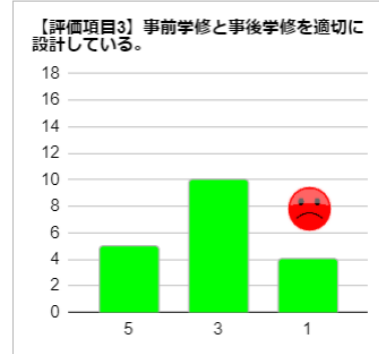
上記の4点を踏まえ、授業内容や進め方を調整していただければと思います。



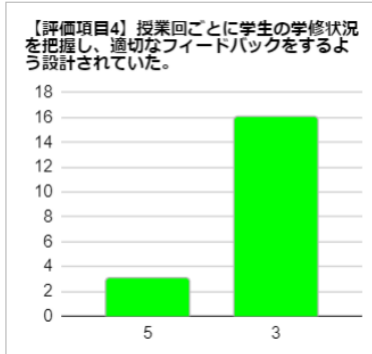
5点：全ての授業回でオンデマンド型授業がされていた。かつシラバスに授業の詳細が明記されていた。	3点：全ての授業回でオンデマンド型授業がされていた。	1点：オンデマンド型授業が実施されていない回があった。
---	----------------------------	-----------------------------



5点：毎回の授業の学修内容の指示が明確で、かつ、1回あたり100分の学修時間を担保する設計がされていた。	3点：1回あたり100分の学修時間を担保する設計がされていた。	1点：1回あたり100分の学修時間が担保されていない回があった。
--	---------------------------------	----------------------------------



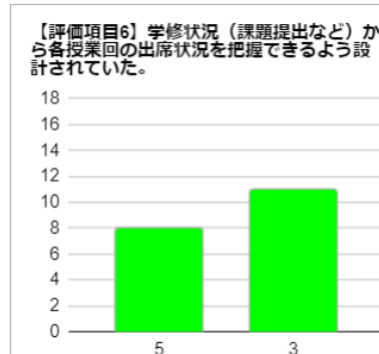
5点：毎回の授業回において、「授業の指示」に加えて、「事前学修」「事後学修」が切り分けられており明確な指示がされていた。	3点：毎回ではないが、「授業の指示」に加えて、「事前学修」「事後学修」が切り分けられており明確な指示がされていた。	1点：「事前学修」「事後学修」の設定が全くされていなかった。
--	---	--------------------------------



5点：毎回の授業回において、前回授業の内容や課題に対しての、フィードバック(解説、補足説明等)が行われていた。	3点：毎回ではないが、前回授業の内容や課題に対しての、フィードバック(解説、補足説明等)が行われていた。	1点：フィードバックが全く行われていなかった。
---	--	-------------------------



5点：十分に獲得できた。	3点：獲得できた。	1点：獲得できなかった。
--------------	-----------	--------------



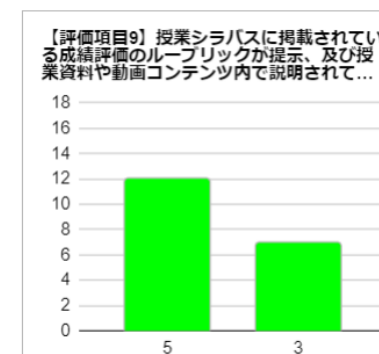
5点：各授業回終了後に、kyonet出欠管理に全ての出欠が反映されていた。	3点：各授業回終了後に一部出欠登録がされていないケースがあった。	1点：出欠管理が全くされていなかった。(kyonet出欠管理に登録されていなかった)
---------------------------------------	----------------------------------	--



5点：kyontQ&A等で質問しやすいような体制への配慮があり、質問に適宜回答がされていた。	3点：kyontQ&A等で質問ができる体制ではあるが、回答がされないことがあった。	1点：質問を受け付けていなかった。
--	---	-------------------



5点：学習内容指示が明確であり、公開期間や課題の提出期間が適切であった。	3点：学習内容指示は明確であったが、公開期間や課題の提出期間が適切でないことがあった。	1点：学習内容指示が明確ではなく、公開期間や課題の提出期間が適切に設定されていなかった。
--------------------------------------	---	--



5点：シラバスにルーブリックの記載があり、説明や成績評価基準が明確に理解できた。	3点：シラバスにルーブリックの記載はあったが、その説明や成績評価基準が明確ではなかった。	1点：シラバスにルーブリックの記載がなく、成績評価基準が理解できなかった。
--	--	---------------------------------------

※補足

[評価項目1]の0点回答は「全ての授業が対面だったので評価できない」と回答

[評価項目7]の0点回答は「質問をしたことがなく評価できない」と回答

[評価項目10]の0点回答は「対面授業をほとんど受講したことがなく評価できない」と回答